

「ひな祭り」に59名が参加

丈六カラオケクラブ(せせらぎ会)が生歌を披露

系
で
ん
わ

節句祭りで飲食を楽しむ

3月2日(土)にリハビリセンターグリーン丈六の1階食堂で入所者や職員を含む総勢59名が「ひな祭り」を楽しみ、昼食時に提供されたちらし寿司に舌鼓を打った。



発行所

グリーン丈六
広報委員会

徳島市丈六町
山根51番地

雛祭り(ひなまつり)の歴史を見てみると、日本において、女子の健やかな成長を祈る節句の年中行事とされている。「雛祭り」はいつ頃から始まったのか歴史的には判然とせず、その起源説は複数あるようだ。平安時代の京都で既に平安貴族の子女の雅ひな「遊びごと」として行われていたとする記録があるが、その当時においてもやはり小さな御所

雛祭り(ひな)

→丈六せせらぎ会のメンバー

風の御殿「屋形」をしつらえ飾ったものと考えられている。江戸時代になり女子の「人形遊び」と節句の「節句の儀式」が結びついて、全国に広まり、飾られるようになった。3月の節句の祓に雛祭りを行うようになったのは、安土桃山時代の天正年間以降のことだと推測されている。次に雛人形自体に着目してみると、多くは



→提供された昼食

藁で作られた土台に衣装を着せ付け、別に作られた頭部を合体して作られているものが多い。また木目込みの技法で比較的小さなサイズで作られているものも人気がある。その他、土製のものや陶器・木製などのものもあり多くの種類がある。段飾りのように主に内裏雛が多いが、立雛のものもあるようだ。古くから嫁入り道具の一つとされたため雛人形は、母方の実家か

- 3月2日(土) ひな祭り・カガ竹大会
- 6日(水) 生花クラブ
- 16日(土) すこやか倶楽部
- 4月1日(月) 入社式
- 3日(水) 生花クラブ
- 6日(土) 花見会/花見弁当 大正琴
- 27日(土) すこやか倶楽部

行事予定



ら贈ることが一般的とされたが、現在では家庭により異なっている。このため代々伝わっているものや遠方から嫁いできた時に持ち込まれたものもあるため、地域差は一概には言えないが、関東地方と関西地方と二分され、飾り方や各人形の形・持ち物が異なっている。関東地方では主に武家の持ち物・暮らしを表したものが多く、関西地方では御所・宮中の暮らしを模したものが多いらしい。(乗り物で関東は「駕籠」、関西は「牛車」の違いなど)最後に少し視点を変え、ひな祭りが祝日ではない理由について、

江戸時代、雛祭りは「五節句」のひとつとして「祝日」として存在した」とされる。しかし、1873年の新暦採用で「五節句(雛祭り等を含む)」が祝日廃止となり、さらに「国民の祝日」より「皇室の祝日」色が濃くなった。このため、戦後になって新たに祝

日を作ろうとする動きが見られるようになる。祝日制定にあたり3月3日の案や、新年度の4月1日の案も出ているが、最終的には5月5日の端午の節句を祝日(こどもの日)とする案が採用された。北海道・東北をはじめ寒冷で気候の悪い地域の多い時期を避け、全国的に温暖な時期の5月にしたというのが大きな理由の一つとされる。(事務 犬伏卓也)



→正面玄関奥に飾られたひな人形

通所だより

今回は習字です。書初めは時間がかかりましたが、得意な人がとても多かったです。中には「習字が一番好き」という人もいて、筆で様々なものを書いていただきました。また、「10年？20年ぶり？」と懐かしんでいた方もいました。

小さく書く方や太く書く方など三者三様で思い思いの作品を作り上げました。そして、何枚か書いているうちに皆さん時間を忘れて夢中で取り組まれていました。1枚で「これでいい」という方もいれば「もう1枚、あともう1枚」という方もおられました。作品は3階リハビリ室手前の廊下の壁面に展示させていただきますました。既にご覧になっていただいた方もおられると思いますが、施設にお越しの際には是非お立ち寄りください。

(通所リハビリ 網本 康恵)



→通所リハビリの風景

BLS

皆さんは「BLS」という言葉をご存知でしょうか。BLS (Basic Life Support) とは、心肺停止または呼吸停止を起こした人に対する一次救命処置のことです。もし、そのような場面に遭遇したら救急車を呼び、救急隊や医師に引き継ぐまでの間、応急処置を行います。この応急処置が救命においてとても大切だとされています。

BLSは、心臓マッサージとAED(心停止した際、電気ショックを与え、心臓の動き

を元のリズムに戻すための医療機器)の使用を組み合わせで行います。早期に質の高いマッサージとAEDを開始することです。これは医療従事者でなくても行うことができ、当施設でも職員が半年に一度講習を受けています。救命処置が必要な場面に遭遇したら、講習で学んだことを一度落ち着いて思い出し、尊い命を救う手助けができるよう職員一同努めていきたいと思えます。(メディカルサポート 合津 美紀)



→BLS講習の様子



技術革新の真髄

国立長寿医療研究センターと島津製作所は、アルツハイマー病変を血液検査で早期に検出する手法を確立したと発表した。アルツハイマー病の根本的な治療薬や予防薬の開発につながる成果という。島津製作所の田中耕一氏が開発し、2002年ノーベル化学賞の受賞理由となったたんぱく質質量分析技術を活用している。田中耕一氏は東北大学工学部、電気工学科を卒業し医療分野を志して島津製作所に入社。エレクトロニクス技術などを活用し、病気の超早期発見を目指したい考えを明らかにしていた。

他分野の人が医療分野に参入し、医療の進歩に貢献することは並大抵の努力ではないと拝察します。しかし技術革新の真髄はこのような点にもあるのではないかと考えます。

(リハビリテーション 谷岡 龍一)

新入職員のご紹介



藤本翔(介護主任)
利用者様がよりよい生活を送れるようにサポートを頑張ります。

谷真琴(介護)
老健施設での勤務は初めてですが皆様のお役に立てるよう頑張りますので宜しくお願いします。

佐古京子(介護)
笑顔を大切に入所者様の思いに寄り添えるよう頑張りますので宜しくお願いします。

高尾 柊(介護)
介護の仕事は未経験ですが勉強を重ね明るく元気に仕事に取り組みたいと思いますので宜しくお願いします。

岩城 亜久理(介護)
入所者様との関りが一番多い介護職員として入所者様本位の生活が出来るよう努めていきます。

河野美智子(厨房)
自身が健康でいられる限り一生懸命頑張りたいと思います。宜しくお願いします。

